

修士論文（要旨）

2020年7月

日本語学習者の学習動機づけの変化  
—日本の大学に進学した中国人上級日本語学習者に着目して—

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

217J3011

廖 文卿

Master's Thesis (Abstract)  
July 2020

Change in Motivation of Japanese Language Learners:  
Focusing on Chinese Advanced Japanese Learners Attending Japanese Universities

Wenqing Liao

217J3011

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

## 目次

第1章 はじめに.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.2 研究と大学の卒業論文との関連性.....	1
1.3 研究の目的.....	2
第2章 先行研究.....	3
2.1 学習動機づけの定義.....	3
2.2 主な学習動機づけ研究.....	3
2.2.1 「道具的動機づけ」「統合的な動機づけ」.....	3
2.2.2 「内発的動機づけ」「外発的動機づけ」.....	4
2.3 学習動機づけ理論「自己決定理論」.....	4
2.4 日本語教育における学習動機づけの変化に関する研究.....	5
2.5 先行研究から発展できる学習動機づけ変化に関する研究.....	6
第3章 調査概要.....	7
3.1 調査の目的.....	7
3.2 調査対象と調査方法.....	7
3.2.1 調査対象.....	7
3.2.2 調査方法.....	8
3.3 分析方法.....	8
3.3.1 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ.....	8
3.3.2 分析手順.....	10
3.4 研究の進め方.....	10
第4章 分析.....	12
4.1 ストーリーライン.....	12
4.1.1 来日前.....	12
4.1.2 日本語学校時期.....	12
4.1.3 進学後.....	12
4.2 分析結果.....	13
4.2.1 ワークシート.....	13
4.2.2 カデコリー表.....	20
4.2.3 結果図.....	21
第5章 考察.....	22
5.1 自己決定理論を用いた考察.....	22
5.2 分析結果から見る総合的な学習動機づけの変化.....	23
5.2.1 「来日前」の段階.....	23
5.2.2 「日本語学校時期」の段階.....	25
5.2.3 「進学後」の段階.....	27
5.3 内発的学習動機づけ・外発学習動機づけ.....	29
第6章 考察の結果とまとめ.....	31
第7章 今後の課題.....	32

参考文献  
卷末资料

本研究は、中国人上級日本語学習者の学習動機づけの変化に注目し、日々変化していく学習動機はどのような過程を経るのか、また、その中にどのような変化の原因や要素があるのかを明らかにしようとするものである。動機づけ研究の先行研究を踏まえながら、学習者の学習動機づけに影響を与える要因だけではなく、学習動機の変化のプロセスを明らかにすることを旨とする。中国で日本語学習を開始し、日本で日本語が上級になるまで勉強した中国人上級日本語学習者を調査協力者とし、来日前、日本語学校時期、進学した後の三つの時期について、調査・分析を進めた。

研究課題は以下の通りである。

- (1) 来日前の調査対象者の日本語学習動機づけは何か。なぜ日本に留学すると決めたのか。
- (2) 日本語学校在学中の調査対象者の学習動機づけは何か。どのように日本語学習に取り組んでいたか。
- (3) 日本の大学に進学した後の調査対象者の学習動機づけは何か。どのように日本語学習に取り組んでいたか。
- (4) 調査対象者の三つの時期の学習動機づけの違いを比較したとき、変化をもたらした要因は何か。変化のプロセスはどうなっているか。

動機づけは英語の「モチベーション(motivation)」から邦訳されたものである。言語教育における動機づけ理論には様々なものがあるが、本研究では「自己決定理論」を主たる理論背景として分析を行う。

調査は日本の大学に進学した中国人日本語上級学習者Rを対象とし、学習動機づけの変化のプロセスをインタビューで聞き、得られたデータを文字化した。その結果を、木下(2007)の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いて分析し、「自己決定理論による動機づけの構造」(櫻井 2009、他)を用いて考察した。

考察では、自己調整の段階を6つのアルファベットで表示し、Rの学習動機の軌跡を表示した。アルファベットはAからFで、Fは無動機に属し、BからEは外発的学習動機づけであり、Aは内発的学習動機づけである。

考察の結果、研究課題(1)、(2)、(3)、(4)に対して以下の答えが得られた。

#### 研究課題(1)

「来日前」の段階で、Rの学習動機づけの変化軌跡のモデルは  $A \rightarrow C \rightarrow B$  であった。まず内的要因は、〈アニメ・ドラマへの興味〉の内発的調整(A)で初めて日本語学習の内発的学習動機づけられた。次に、日本に留学する理由は、〈日本留学の決定〉の外発的要因の中にある。この要因の中で、Rは同一化調整(C)で学習動機づけが外発的になり、次の学習行動〈留学準備〉がつながることができた。基礎的な日本語を把握したい、留学生活の不安を減少したいという考えから、同一化調整(C)により、外発的学習動機づけの中で、内在化がより内発的に進むことが分かり、〈留学準備〉することで、統合的調整(B)であることが分かった。

## 研究課題 (2)

「日本語学校時期」の段階で、R の学習動機づけの変化軌跡は A→C であった。来日前と比べて、学習動機づけの変化が見られた。より内発的になった。〈優等生〉、〈積極的な日本語学習〉が要因であることが明らかになった。〈積極的な日本語学習〉という積極的な感情を持って日本語学習することで、学習動機づけが内発的になり、その中に R 自身の内発的調整があった。外的要因として、〈帰属感と安心感がある学習環境〉という環境要因がある。また、日本語学校の進学対策が不足して満足できず、大学に進学する目標の達成が必要だったため、〈進学準備〉の外的要因の中、R の同一化調整 (C) が見られた。

## 研究課題 (3)

「進学後」の学習動機づけの変化軌跡は、A→C→E→C であった。進学目標を果たし、ようやく日本大学に進学した R は、大学一年の時期に新鮮感が満たされ〈向上させたい日本語能力〉の内的要因があり、日本語学習の会話能力への内発的調整 (A) があることが明らかになった。しかし、進学直後の R にとってまだ学術的日本語能力が身につけていないため、〈大学の学習内容〉が違い、〈学習中の悩みの解決策〉の中で悩みを解決しなければならなかったため、R の日本語学習の同一化調整 (C) が見られた。そして大学3年の時、大学での学習生活の新しい刺激が足りず、日本語学習へのやる気が減ったことで〈大学留年〉に至り、R は、卒業や失敗の回避という外的要因のため学業単位を獲得せざるを得なかったことは、外発的学習動機づけの外的調整で (E) ある。これは R の日本語学習生活全体像の中で内在化調整がもっとも外発的な時期である考える。そして現在、R は日本語学習に向けて、〈日本語学習への新たな態度〉があり、日本語を手段として仕事に生かすことを目標とし、学習動機づけの内在化が同一化調整 (E) になったことが明らかになった。

## 研究課題 (4)

考察の結果からみると、R の各段階の学習動機づけは、内発的学習動機づけと外発的学習動機づけとの構成があることが分かった。R のこれら学習動機づけの変化の要因は、各段階で、大きく二つのカテゴリーに分かれる。それは内的要因と外的要因である。そして、これらの要因は、R の日本語学習への取り組みの自己調整につながるということが明らかになった。つまり、内発的学習動機と外発的学習動機はどちらも R の日本語学習に影響があった。R は各段階の開始時は内発的学習動機づけが最初に発生し、そして外発的学習動機づけに変化したということが明らかになった。

今後の課題として、関連する研究を継続、蓄積することでさらに深め、研究対象の人数を増やし、引き続き中国人日本語学習者の学習動機づけの変化とその変化に関わる要因をより詳しく捉える必要がある。また、引き続き学習動機づけの縦断的な変化に関する続けていきたいと考えている。

## 参考文献

- 青柳肇 (1992) 「動機づけ」 東洋・繁多進・田島信元(編) 『発達心理学ハンドブック』、福村出版.
- 伊田勝憲 (2015) 「擬似内発的動機づけ」概念化可能性を探る—自律的動機づけ形成のデュアルプロセスモデル構築— 『静岡大学教育学部研究報告』第 65 号、pp139-150
- 大西由美 (2014) 「日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究：日本語接触機会が少ない環境の学習者を対象に」北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻博士学位論文.
- 郭俊海・大北葉子 (2001) 「シンガポール華人大学生の日本語学習動機づけについて」 『日本語教育』第 110 号、pp130-139.
- 木下康仁(2007) 『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂.
- 高宸 (2020) 「中国人留学生の WTC の変容—学内外の参加を着目して—」2020 年度桜美林大学大学院修士論文.
- 小林由子 (2016) 「日本語学習研究における「内発的動機づけ」の再検討」北海道大学国際教育研究センター紀要, 20, 81-92
- 櫻井茂男 (2009) 『自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達の視点を加えて』有斐閣.
- 嶋田和子 (2004) 「予備教育におけるアカデミック・ジャパニーズに関する—考察」 『日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ』2, pp.77-92.
- 瀬尾匡輝 (2011) 「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る—」 『日本学刊』14、pp16-39.
- 館岡洋子 (2015) 「日本語教育のための質的研究入門—学習・教師・教室をいかに描くか」 ココ出版.
- 竹口智之 (2013) 「サハリン州 (ユジノサハリンスク市) における日本語学習動機の変容過程と要因」 『日本語/日本語教育研究会』 pp49-265.
- 趙崢光 (2015) 「中国人日本語学習者の学習動機の変化のプロセス」 『Global Communication』,5, 47-64. 武蔵野大学グローバル教育研究センター
- 中井好男 (2009) 「中国人就学生の学習動機の変化のプロセスとそれに関わる要因」 『阪大日本語研究』21、pp151-181.
- 長沼君主 (2006) 『言語学習動機づけ診断尺度の開発とその展望』東京外国語大学博士論文.
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査」 『日本語教育』第 86 号、pp162-172.
- 守谷智美 (2002) 「第二言語教育における動機づけの研究動向：第二言語としての日本語の動機づけ研究を焦点として」 『言語文化と日本語教育』2002 年 5 月特集号、pp315-329.
- 三浦省吾(編)(1983) 『英語の学習意欲』、大修館書店.
- 水野基樹 (2008) モチベーション研究における動機概念に関する理論的整理 —

McClelland の所説に基づいて —

- 山口敏幸 (2003) 「香港における正規学校教育以外の日本語教育活動の概況」日本語教育学会編『海外における日本語教育活動の概況—現職者研修活動および学校外活動を中心にして』 27-29
- Crookes, G., & Schmidt, R. W. (1991) Motivation: Reopening the research agenda, *Language Learning*, 41, 469-512.
- Deci, E. L. (1975) *Intrinsic motivation*. New York : Plenum Press. (安藤延男・石田梅男訳 (1980) 『内発的動機づけ—実験社会心理学的アプローチ』誠信書房)
- Deci, E.L. & Ryan, R. M. (1985) . *Intrinsics motivation and self-determination in human Behavior*. New York: Plenum
- Dörnyei, Z. (1994) Motivation and motivating in the foreign language classroom, *Modern Language Journal*, 78, 273 - 284.
- Dörnyei, Z. (1998) Motivation in second and foreign language learning. *Language Teaching*, 31,117-135.
- Gardner,R.C.and Lambert,W.E. (1972)*Attitudes and Motivation in Second Language*
- 国際交流基金 (2019) <https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2019/dl/2019-029.pdf>
- 独立行政法人日本学生支援機構 (2019) 平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査等について—留学生受入れの概況—<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/statistics/index.html> (2020 年 5 月検索)



巻末資料

承諾書

調査に関わる「個人情報保護」に関する承諾書

私は桜美林大学大学院言語教育研究科日本語教育専攻の廖文卿と申します。現在「日本語学習者の動機づけ」について調査しております。お忙しいところご迷惑をお掛けいたしますが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

(1) 調査は、名前、生年月日、学年、日本語学習歴等を質問しますが、研究以外の目的では使用いたしません。

(2) 調査の内容について、以下の範囲において、使用させていただく可能性があります。

- ・研究会でのシンポジウム、口頭発表など
- ・紀要や学会誌や修士論文など

同意の上、サインをお願いします。

何かご質問などありましたら、調査者へご連絡ください。

署名

年 月 日